

【マイクロフィルム版 第2弾製作】 後藤新平文書撮影順調

マイクロフィルム版「後藤新平文書」収録目録の改訂DVD版として雄松堂書店から発刊されたのが、平成21年9月20日。それから10年余りが経過したため、前回収録以降の寄贈資料や未掲載資料の撮影を行っています。



未掲載資料等のマイクロ収録に関するお話は、以前からあったものの、コロナ禍の関係で身動きがとれず、延び延びになっていましたが、緊急事態宣言等の合間やPCR検査等の確認をした上で、実施に踏み切りました。4月13日から1週間ほどをかけて、雄松堂ソリューション開発センターの吉本旅人さんが資料の選別を行い、6月8日からインフォマージュの後田和男チーフカメラマンら3人が、隣接の後藤伯記念公民館の1室を借り切り、1か月半の予定で撮影を開始しました。
今回は、ネットを通してのデジタル配信を予定しているとのこと。新たなマイクロ版の完成が待たれます。

【後藤新平生誕祭(6月4日)】

昨年度中止とした「生誕祭」を、今年度は、顕彰会三役・常任理事等に参加者を限定し、小規模ながら開催に踏み切りました。
今回は、開会に先だち、清泉古流岩手支部の協力を得て、参加者15人で挿花を行い、華やかな中での生誕祭となりました。
顕彰会の山口会長からは、「今年は、新平さんの大きな力を借りて、『コロナ撲滅』を目指したい。私達を見守っている新平さんに恥ずかしくない生活をしよう。」とお話がありました。
その後、後藤新平記念館館長から、ボーイスカウトが新平の古希のお祝いに歌った「後藤総長弥栄の歌」の紹介があり、最後に自治三訣を唱和し、閉会としました。



【水沢看護学苑来館(6月15日)】

地元の看護学校の佐藤剛先生が、今年も新入生35名を引率して来館してくれました。
「命を衛る」仕事に直結する職業を選択した生徒たち。見学2日後には、生徒一人ひとり原稿用紙2枚の感想文を寄せてくれました。
生徒さんの感想の一部を紹介します。「常に努力すること、誰かのために一生懸命になること、学習を続けることは看護師としても人間としても必要です。座学や技術学習をしながら誰かの力になれるよう頑張っていきたい。」とても素敵な文章です。



【聖火リレー(6月18日)】

オリンピック聖火リレーが、それぞれのランナーの思いを乗せて奥州市を駆け抜けました。「国立天文台前」から記念館隣接の「後藤伯記念公民館」までの1.57km。沿道には、ディスタンスを気にしながらも大勢の市民が駆けつけ、TDLさながらの演出に盛んな拍手を送りました。写真は最高齢者大崎ミオさん90歳。

